

## 第1回学校給食あり方検討会

1 日 時:平成30年3月23日(金)13:45~15:00

2 場 所:議会第4会議室

3 出席者:○長崎市PTA連合会(4名)

原会長、濱添副会長、溝上副会長、梅元食育委員長

○教育委員(1名)

坂本委員

○学校関係者(5名)

伊藤校長(外海黒崎小)、高原校長(江平中)、喜多栄養教諭(戸町小)、高西栄養教諭(南長崎小)、白川給食主任(矢上小)

○教育委員会事務局(9名)

馬場教育長

教育総務部:林教育総務部次長兼総務課長、西田総務係長

学校教育部:萱島学校教育部長、辻田学校教育部次長兼健康教育課長、

岳尾学校給食係長、中川主査、高稲指導主事、山田学校教育課長

4 次第 (1)「学校給食あり方検討会」委員の紹介

(2)これまでの長崎市PTA連合会と教育委員との協議経過

(3)平成30年2月議会の報告

(4)調理器具の有無による献立内容の違いについて

(5)その他

5 協議概要

(事務局) 長崎市の学校給食施設は老朽化しており、ウェット式が多いこと、コンベクションオープンの有無によって、同じ給食費を払っているのに給食の内容に差があることなどの問題を早く解消し、また、公の力でしっかりした学校給食センターを作り、異物混入防止のためのエアシャワーなどを設置したり、作業区域を分担したりすることで、衛生面も向上し、おいしい給食ができるような設備機器も揃えて、皆さんに公平な給食を提供したいと考えています。

併せて、児童生徒数が減ってきているにも関わらず、食物アレルギーへの対応を希望する児童生徒数は増えており、現状では食物アレルギーへの対応として代替食ができていないので、なんとか代替食を提供できればと考えていますが、全部の学校に専用室を備えるアレルギーの対応は難しい状況になっているため、学校給食センターの計画をすすめてきました。

ただ、これについては、今年度にPFI導入可能性調査を実施していますが、昨年11月議会にPTAから陳情があって、ちょっと待ってほしい、急いですすみすぎではないかという話があり、しっかり協議をすすめてほしいと議会からも話があって、こういう会議がスタートした次第です。

これについては、説明はしたといっているながらも、詳しい説明に至っていないとか、本当に説明不足・情報の共有不足ということで、非常に反省しており、11月議会以降3回、P

TA役員の皆様と教育委員との懇談会を行い、情報の提供・共有化に努めてきたところです。

その中で、このような会議が継続的に必要とのことで、今回初めて(1回目)になりますが、「学校給食あり方検討会」というかたちでスタートし、当面の課題である学校給食センターの情報共有もここでしていきたいと思いますが、それだけに限らず、今後も継続的に学校給食のあり方を皆さんで情報共有しながら、よりよい学校給食の提供に向けてすすんでいきたいと考えています。

ただ、11月議会に陳情が出て、2回目の懇談会を済ませた後、単Pの会長の皆様に説明したところ、そのとき初めて詳しく聞いたという方もおり、特にたくさんの意見が出たわけではなかったが、逆に南部の方はまだですかというご意見もありました。

そういう中で一歩すすんで考えていいのではとPTAの方からお返事いただいたので、30年度の当初予算を議会に出したのですが、もう少しPTAの皆様とも、建設予定地の地域の皆様とも協議したうえで、出したほうがよいとのことで、時期尚早として予算が通りませんでした。

そういう中で今日の会議となります。どちらにしましても、今日の会議は編成する予定ではありましたが、もう一度情報を共有し、方向性を一緒にして、すすみたいと考えています。

PTAの皆様とはこれまで3回ほど協議をさせていただきましたが、そのうえで学校現場の先生あるいは栄養教諭にも入っていただいた方がよいのではということで、このメンバーで第1回目をスタートし、当面の課題である学校給食センターの問題と学校給食のあり方について、一緒にざっくばらんに話しができて、情報共有しながら、子供たちにいい給食を提供するにはどうしたらよいかということ話し合っていけたらと思います。

ただ、事務局といたしましては、じっくり話しをしながら、1日も早くいい給食の提供ができればと思っています。

この会は、ここで決めたという会ではなくて、説明し、ご意見を伺いながら、方向修正しながら進んでいこうという柔軟な会議にしたほうがよいというPTAの方々と教育委員との間でこういう形式になりました。

皆様からの忌憚のないご意見をもって、目標はひとつ、いい給食を提供するにはどうしたらいいのかということをご様に考えていただければと思っています。どうかよろしくお願ひします。

#### (1)「学校給食あり方検討会」委員の紹介

(各委員) 自己紹介

#### (2)これまでの長崎市PTA連合会と教育委員との協議経過

#### (3)平成30年2月議会の報告

#### (4)調理器具の有無による献立内容の違いについて

(事務局) 資料の説明

(委員) 最後の市P連との協議で、市P連の会長が、「具体的な協議の中で要望等をすりあわせ進めていく」と言われたが、間違いはないか。900万の予算がついて進むと理解していたが、予算がつかないということは、具体的なことは後になるか。

(事務局) 具体的なことは後になる。学校給食センターについて一定理解はされているが、協議が足りないとの御意見を頂いている。

(委員) 市P連への説明不足とはどういうところか。具体的な話を進めて行くということが、予算が通らなかつたら市P連もやりにくいのではないか。

- (委員) 連合会としても、この予算が通って、具体的な話ができると思っていた。  
市P連で浸透していないことを政局に使われた感があり本意ではない。しかし、市P連内で認知が足りていないのは事実。市P連の中でも、配付資料等で意識を高めたい。  
市P連でも取り組むものについて、行政とも具体的なところを話してきたい。
- (委員) 地域の状況を聞きたい。
- (事務局) 地元自治会へ3回説明会を行った。臭い、騒音、交通対策について意見をもらっており、市としてもきちんと対策を講じると説明している。自治会とも、意見交換をするよう話をしており、他都市の給食センターの視察も計画しているので、理解してもらえよう努めたい。
- (事務局) 市P連の方とは3回、市長・単P会長・教育委員との意見交換の場もあった。  
議員の方からは、「まだまだ理解されていないのでは」との意見もあっている。
- (委員) PFI導入調査が実施されたが、PFIで大丈夫とか、PFIで行くと決定したのか？
- (事務局) 導入可能性調査により、直営よりもPFIの方が費用対効果があるといった報告が来た。  
それを議会に報告した。
- (委員) 連合会としては、PFIだからどうのこうのは無い。給食センターが進むと助かるところもある。  
アレルギー対策や民間になるとどうなるか早く協議したい。
- (事務局) アドバイザリーが決定していなくても、内部の方針は一定決まっている。今想定している情報を共有していくことは出来る。
- (委員) 今回から栄養教諭も参加してくれたので、除去食の対応についても聞きたい。いろいろな除去食に対応可能な全国一すばらしいと言える給食施設を造ってほしい。そのためには、広い専用室が必要。栄養教諭の方に、給食センターでどこまで対応可能なのか聞きたい。娘は珍しい食物アレルギーがある。学校から詳しい資料をもらって、確認している。それだけでも相当な作業量。それも大きな対応。これを、どこまで新しい給食センターで盛り込めるか。
- (事務局) 各学校で行っている人的対応は変わらない。アレルギー対応品目は今の対応から変わることは無い。出来るだけ手を打ちたい。
- (委員) 質問だが、どういう献立ができるのか、この会で、協議出来るのであれば、そういった話をした方がよいのでは。
- (事務局) 配布資料の16Pに、長崎市の学校給食のあり方について示している。食物アレルギーの対応や献立内容の充実、異物混入対策についても掲げている。
- (事務局) 配布資料の17P、18Pに給食施設の現状をのせており、ほとんどの学校が、老朽化し、ドライシステムでは無い。
- (事務局) 配布資料の19Pに調理器具の有無による献立の違いをのせている。委託炊飯のところは、白ご飯のみ。混ぜご飯をする場合は皿数の関係もあり、具が1品を占めるので、委託炊飯校では1品少ないメニューになる。スチコンがあるところは、焼く、蒸すなどが出る。
- (委員) アレルギーの件で心配なことがある。エピペン持参の子も増えている。少人数だから対応できるところも。小規模でできていることが、大きな給食センターになると出来なくなることもあるのでは。栄養士の数は増えないのに、対応できるのか不明。献立については、献立を立てるが楽しくなるような、そういう施設を作ってほしい。
- (委員) 現在、親子方式の調理場。委託炊飯のため、1品少ない献立。設備が充実していないと、したいことができない。設備があると、メニューに対してチャレンジできる。子供たちに知らせるいい機会になる。スチコンで加熱し、真空冷却器で冷ますと、野菜がおいしい。野菜のおいしさが全然違う。施設設備が充実すると、やりがいが違う。  
ただ、食数がどの程度になるか、大規模となると、どれくらいできるかの不安はある。

アレルギー対応について、他市給食センターの栄養士は、「担当になったときは、気が狂いそうになる」と言っている。その中で、食育もしなければならない。定数の中でやっていけるか不安。栄養士の配置について配慮してほしい。

(委員) 素朴な質問。どのようにメニューを分けているのか。施設で分けているのか。

(委員) 19Pのメニューは、上の段と下の段では、同じ金額で出来るのか。

(委員) その日、その日の金額は違うが、月平均すると同じ。

(委員) 学校ごとに、内容が違うのか。

(委員) 差はある。

(委員) 施設や器具の関係で、やりたくても出来ない。ドライ校は自由がきく。

(委員) 給食内容を充実してほしい。

(委員) 学校で、レギュラーに対応したことは？

(委員) バイク給食(6年生)ができるところもある。

ご飯が、弁当箱方式からつぎ分けになり、家庭の食事と同じ指導ができるようになった。カレーも深皿で食べられるようになるなど、大きく変わってすごくよくなってきた。炊飯に係る経費負担も助かった。99%の子供は、給食を楽しみにしている。給食が充実することで、喜んで学校に来る。

(委員) 卒業祝いやひな祭りなどには、デザートがあり楽しみにしている。とうもろこしご飯も、この資料のとおり。

アレルギー対応については、栄養教諭から資料をもらい、学校でも複数チェックして給食を提供している。大きな変化もなく、安全に提供できている。

食育については、給食や家庭科だけでなく、保健体育、理科、社会科など、あらゆる場面で食育可能である。給食が中心だが、教科でも行っている。各学校、かなりやっていると思う。

(委員) 施設の充実が必要。給食で味わっているものに違いがある。民間で、除去食をどこまで対応できるか。アレルギー対応の気になるところをどこまでフォローしていけるのか。できる体制を整理してほしい。

(委員) 複雑化しているところを統一化していくことは分かる。除去食が人的負担になるのか、すべてのアレルギーに対応しているところはない。

また、このような状況を一般の会員に伝えていく手法の検討が必要。広報紙に掲載する。校長会へも伝えていく。一部の人だけで決めていると思われたくない。伝え方を決める必要あり。議会の理解も深まる。

アレルギー対応は、大村では卵だけだった。諫早市はいくつか対応していた。長崎市はどこまで対応するのか？

(事務局) 保護者への周知については、内部でも協議中。相談させてもらいたい。双方でやっていきたい。この会を傍聴してもらってもよいと思う。

(委員) 適正配置室がまわっているようにできれば。聞いていない人がいれば、それが、保護者の意見となる。そうしないと、市P連自体が会議を開くことも難しい。早め早めにやっていただきたい。

(事務局) 私たちも、回ることは必要と言っている。北部中心でよいか相談したい。

(委員) 合意形成が必要。単Pでは、試食会してアンケート実施するなど、関心が高まる時期。有効である。

(委員) VFMを見て初めてわかった。経済効果があることはよいが、保護者としてはその浮いた経費を1%でも教育に充ててほしい。全国に先駆けとなるアレルギー対応をお願いしたい。本音を出し合いながら、合意を形成したい。

(委員) 確認事項として、市としての学校給食センターの方向性について、建設予定地は変わらないのか、それともそこから考えていくのか。例えばその方法として長崎の特異な地形の中で小規模なセンターを作っていくのか、それとも、はなから3か所のセンターにするのか、そういったものは決まっているのかお聞かせいただきたい。

(事務局) 長崎市としては、市内に3か所の学校給食センターが必要ではないかと考えている。その1か所目を教育施設用地として確保している豊洋台を考えている。大きな方針として事業を進めている状況である。

(5)その他

今後、学校給食センターに対する単Pの認識を深めるため、市P連、教育委員会双方から、以下の点について情報発信していくことを確認した。

- ＜市教委＞ 協議会の会議録をホームページに掲載する。  
各学校のPTAを対象とした説明会を開催する。  
他都市の学校給食センターへの視察見学会を実施する。
- ＜市P連＞ 協議の状況を会員に伝えていく。